

令和2年度 学校関係者評価書

1. 学校評価の年次報告について

- ①学校関係者評価委員会は5名（4名は新任、1名は再任）の委員によって、第1回を6月に開催した。
- ②学校関係者評価委員会は、6月・11月・3月と学期ごとに、年間3回開催した。
- ③学校評価に係わる各種アンケートの情報収集は、年次計画通り実施できた。
- ④校長以下、学校評価委員は、自己評価書の達成目標に基づいて学校関係者評価委員に対して学校の現状や課題を誠実に報告することができた。
- ⑤学校関係者評価委員の意見は、職員会議や運営委員会及び科会等において各教職員に復伝し、業務改善に努めた。

2. 学校関係者委員からの意見(3回分総括)

- ①新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、健康であることの大切さを親子共々痛感している。
- ②学校の役割は勉学に励む場であるだけでなく、規則正しい生活をする場であると感じた。
- ③ペットボトルの回収やヘアドネーション以外に、コンタクトレンズのケースの回収活動もある。岩国市が窓口になることも可能なので、生徒会を中心に取り組んでみてはどうだろうか。
- ④生徒指導部の達成目標にある「マナー向上」は、社会に出る前に大切なことであると思う。家庭でも子どものしつけやマナーには気を配っていきたいが、学校でもしっかりとした対応をお願いしたい。
- ⑤子どもたちの進路（特に就職）について保護者から質問を受けることが多い。自分の子どもにどのような道が開けるのか、中学生とその保護者向けに上手にPRすることが望まれるのではないだろうか。
- ⑥就学支援金の制度が周知徹底されていないようだ。授業料の負担が少ないことも上手くPRする必要がある。
- ⑦学校はもっと自信を持ってPRしてほしい。環境が子どもたちに与える影響は大きく、コロナ禍の不安定な世の中だからこそ私学の果たす役割もあると思われる。
- ⑧アンケートの結果から、学校からの連絡文書が保護者に完全に渡っていない様子が見受けられる。次年度へ向けての検討課題として、改善に取り組むと良いのではないだろうか。
- ⑨コロナ禍で学校行事等様々な活動が制限を受ける中、対策を講じながら弾力的に運営していることは評価できるのではないだろうか。